

高齢者の社会参加を促す工芸プログラムに関する試験・研究開発 (第4報)

－福祉視点工芸体験プログラムの開発－

Study on craft programs to promote social participation among the elderly (4th report)
－ Designing a Craft Experience Program from a Social Welfare Perspective －

工藤 洋司、赤田 朝子、濱田 圭、小山内 筆子*、千葉 さおり*、
高屋 喜久子**、川守田 礼子**、安部 信行**
(*弘前医療福祉大学、**八戸工業大学)

県や国においては、高齢者のフレイル予防に関する取り組みが活発に展開されている。フレイル予防には「身体・心・社会性」の三要素が重要であるが、現状としては「身体」に関する取り組みが多く、「心・社会性」に関する取り組みは少ない傾向にある。現在、「身体・心・社会性」に対応したフレイル予防に取り組んでいる職種として、リハビリテーション分野、特に作業療法士による治療が挙げられる。その活動の一環として「工芸体験」が導入されている。一方で、市中にて工芸士が実施している工芸体験は、フレイル予防効果が期待できるものであっても、特段フレイル予防的価値を伝えていないものと考えられる。

令和7年度はこれまで調査した現行の工芸体験に対し、新たな工芸プログラムの開発を試作し実演調査を実施した。本年度の実績としては、以下を報告する。

1. 福祉視点プログラムの開発(プログラムの作成6件)

- ①福祉視点ポイントを入れる/南部菱刺し風小箱体験(写真1)・組子体験・漆仕掛塗体験 など6件
- ②福祉視点工芸体験ポイントの手引書作成
- ③作業分析アプリでビデオマニュアル作成

2. 福祉視点工芸製品開発

- ①実演調査(2件)/高齢者団体体験・ミャンマー人研修生体験
- ②製品改善点抽出→改善
- ③二次試作の開発(南部菱刺し風小箱体験キット・組木体験キット)

3. 開発・普及研究会の開催

- 開発・普及研究会 新規協力企業募集(3社加入) 計6社

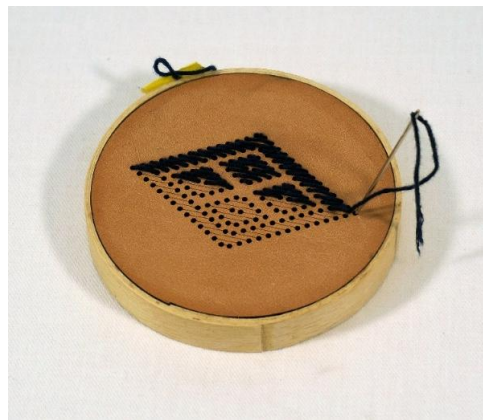


写真1 新規開発した南部菱刺し風小箱キット(特願 2025-142074)